



“地域のことは地域で考えよう”

2018年1月29日

おきぎん県内景況・速報 2017年12月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を下回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数も下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。
ホテル稼働率は、リゾートホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテルは下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2017年12月分)

◎2017年12月 おきぎん「カトリア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

12月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を上回りました。百貨店売上高は食料品などが伸びず、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、太陽光パネルや白物家電が伸びず、前年同月を下回りました。新車販売台数は、小型乗用車などの需要減少により、前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や市町村発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

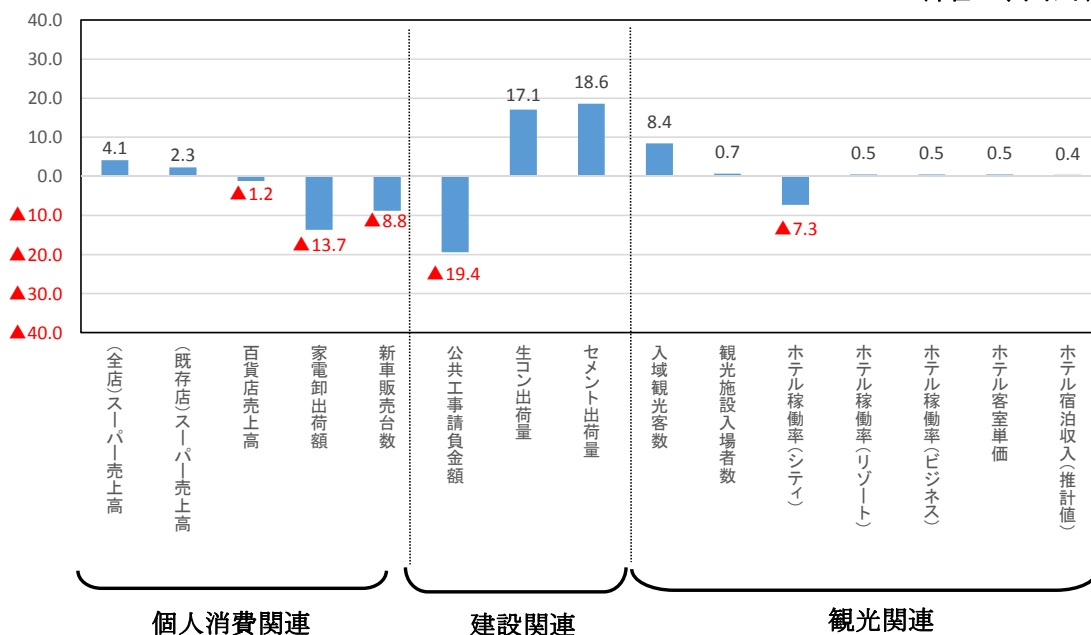
観光関連では、入域観光客数は63ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はリゾートホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から47ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



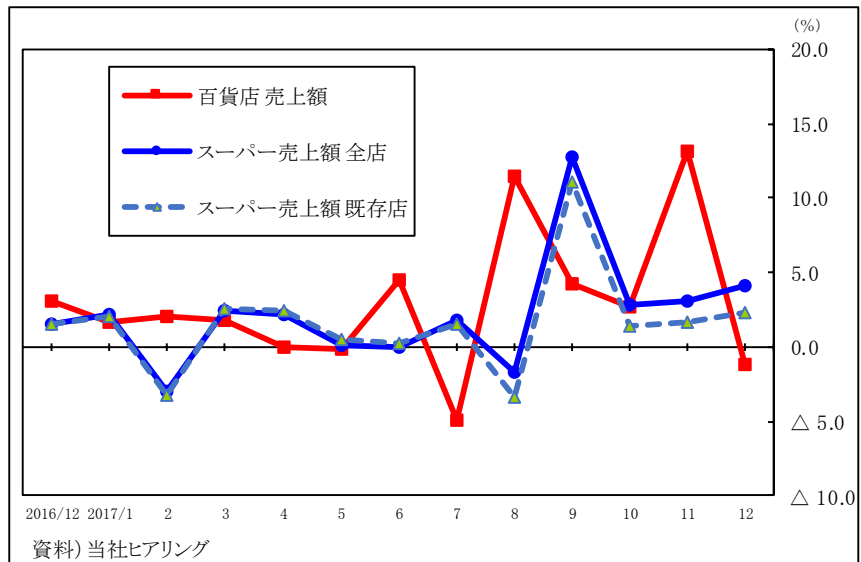


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位: %

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2016/12	1.6	1.5	3.1
2017/1	2.2	2.0	1.7
2	△ 3.0	△ 3.2	2.0
3	2.4	2.6	1.8
4	2.2	2.4	△ 0.02
5	0.1	0.5	△ 0.1
6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	↑ 1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2

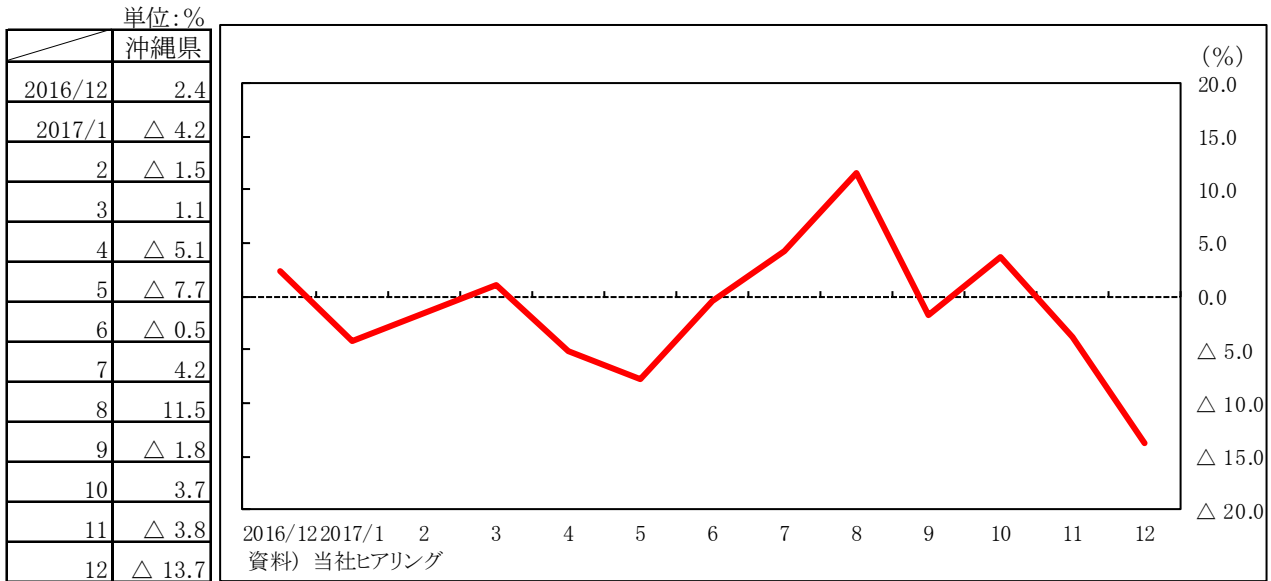


注) 前年同月比

12月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 4.1%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 4.1%増)」、「衣料品(同 4.1%増)」、「家庭用品(同 4.0%増)」など、全般的に売上が伸び、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。「既存店ベース(同 2.3%増)」は、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 2.3%増)」は、お歳暮などのギフト関連商品の需要が好調に推移したほか、前年より気温が低かったことなどから鍋物関連の食材需要が増加し、前年同月を上回りました。また「家庭用品(同 2.1%増)」は、白物家電やエアコンなどの売上が堅調に推移し、前年同月を上回りました。「衣料品(同 3.3%増)」は、紳士服、婦人服、子供服など冬物衣料品の売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、衣料品、雑貨などの売上が堅調に伸びたものの、前年に法人向け外商が大きく伸びた反動減などから、全体としては5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同 1.2%減)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 2.7%増)」は、「紳士服(同 0.4%増)」、「婦人服(同 3.1%増)」のクリアランスセールの前倒し開催により売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 6.4%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。一方、「食料品(同 2.5%減)」は、お歳暮ギフトセールを11月から前倒しで開催したことなどから売上が分散し、前年同月を下回りました。また、外商を含む「その他(同 62.2%減)」は、前年に法人向け受注が大きく伸びた反動減により、前年同月を下回りました。

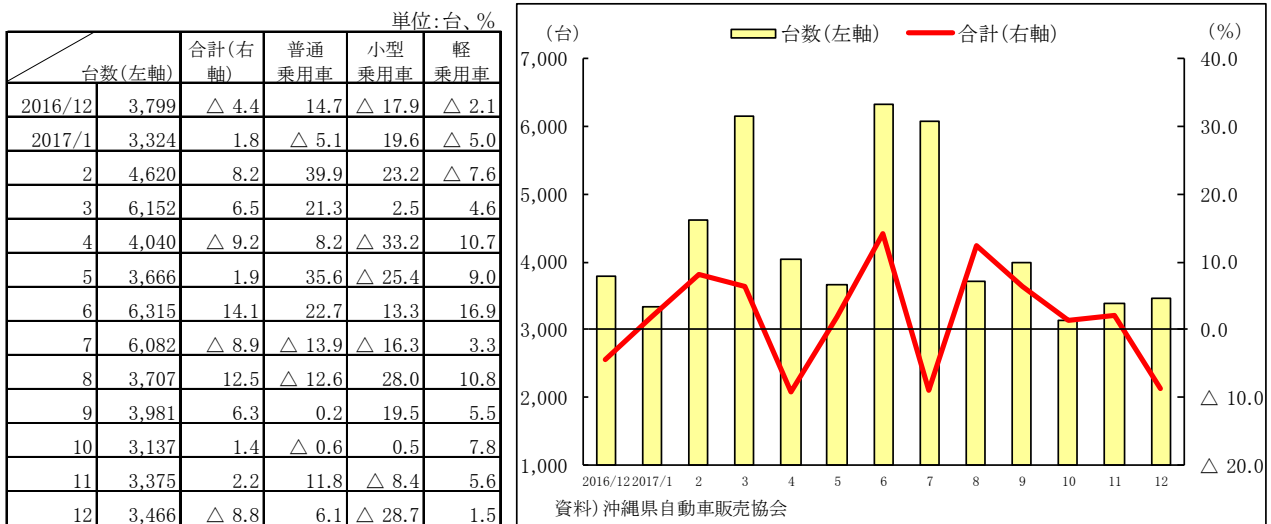
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月連続で前年同月を下回る



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の売れ行きが伸びず、2ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 13.7%減)。品目別では、「冷蔵庫(同 22.6%減)」、「洗濯機(同 17.3%減)」、「太陽光パネル(同 68.2%減)」は、前年に伸びた反動などから、前年同月を下回りました。「テレビ(同 12.8%減)」は、高価格帯商品の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、5ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

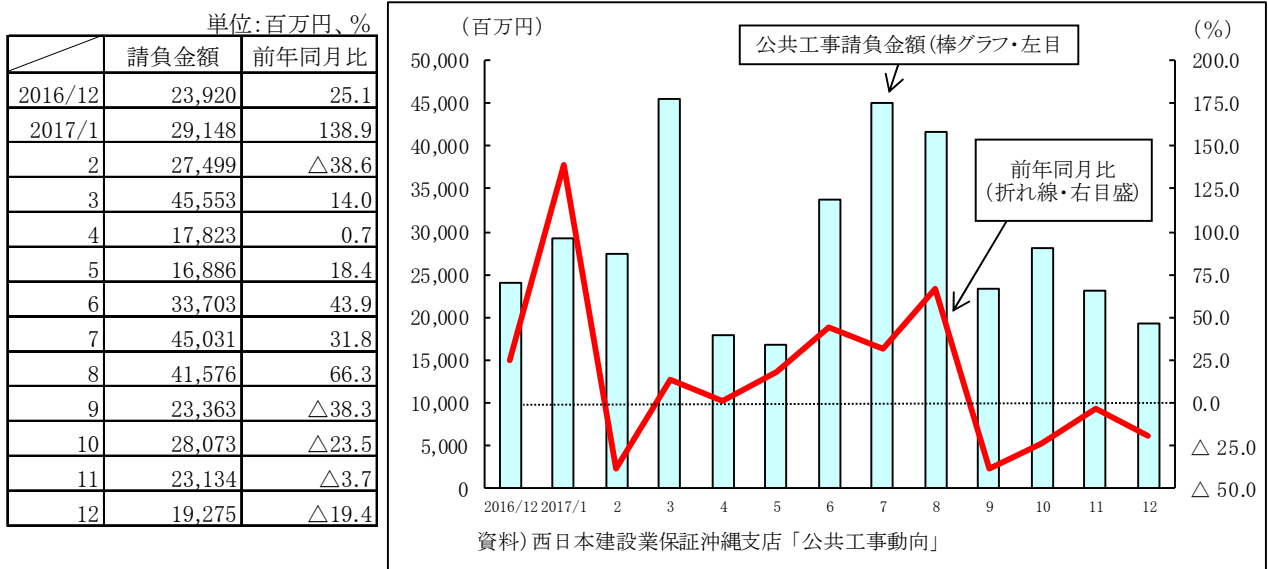
新車販売台数は、全体で3,466台(同 8.8%減)となり、5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 6.1%増)」は需要が好調に推移し、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。また、「軽乗用車(同 1.5%増)」は、軽自動車税増税の影響により落ち込んだ前年の反動から、10ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、「小型乗用車(同 28.7%減)」は、レンタカー需要の伸びず、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



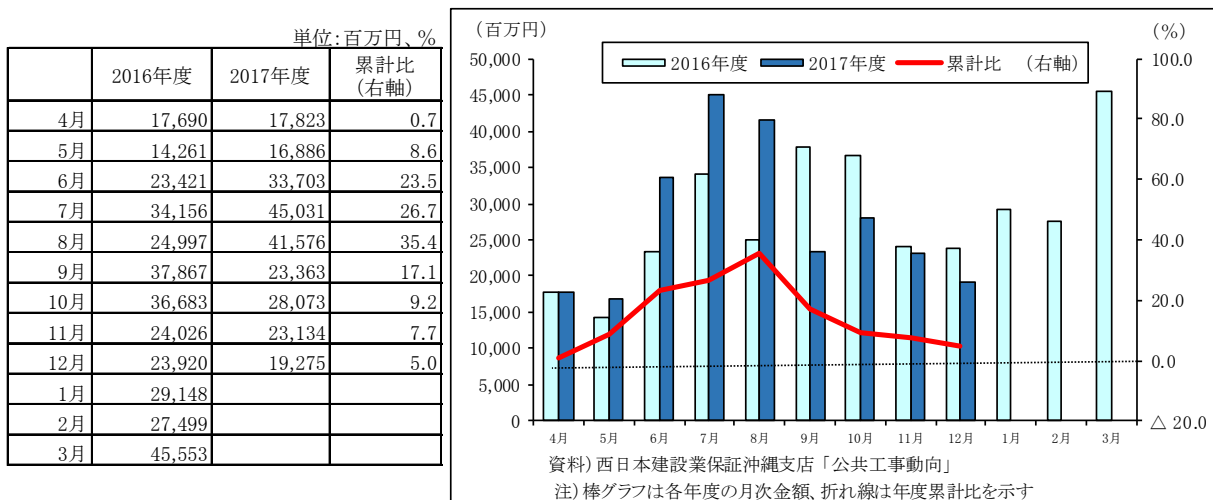
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



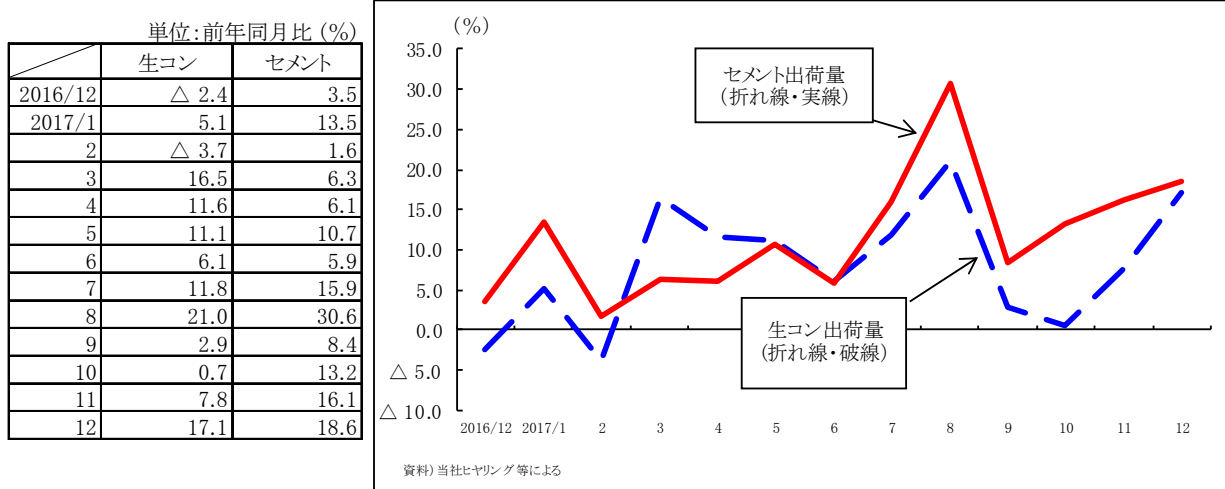
12月の公共工事請負金額は、前年同月比19.4%減の192億7,500万円となりました(4ヵ月連続減)。発注者別でみると、「国(同39.3%減)」は那覇空港滑走路増設工事などの大型工事の反動、「市町村(同44.5%減)」は前年あった南城市庁舎等複合施設関連工事などの大型工事の反動、「独立行政法人等(同30.8%減)」も前年同月を下回りました。一方で「沖縄県(同89.3%増)」は新県立八重山病院建設工事などの大型工事、「その他の公共的団体(同77.3%増)」は名護市内での産業廃棄物施設関連工事などの大型工事などで上回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。



今年度4月～12月までの累計を前年度同期と比較すると、5.0%増となっています。
(上記折れ線グラフ)

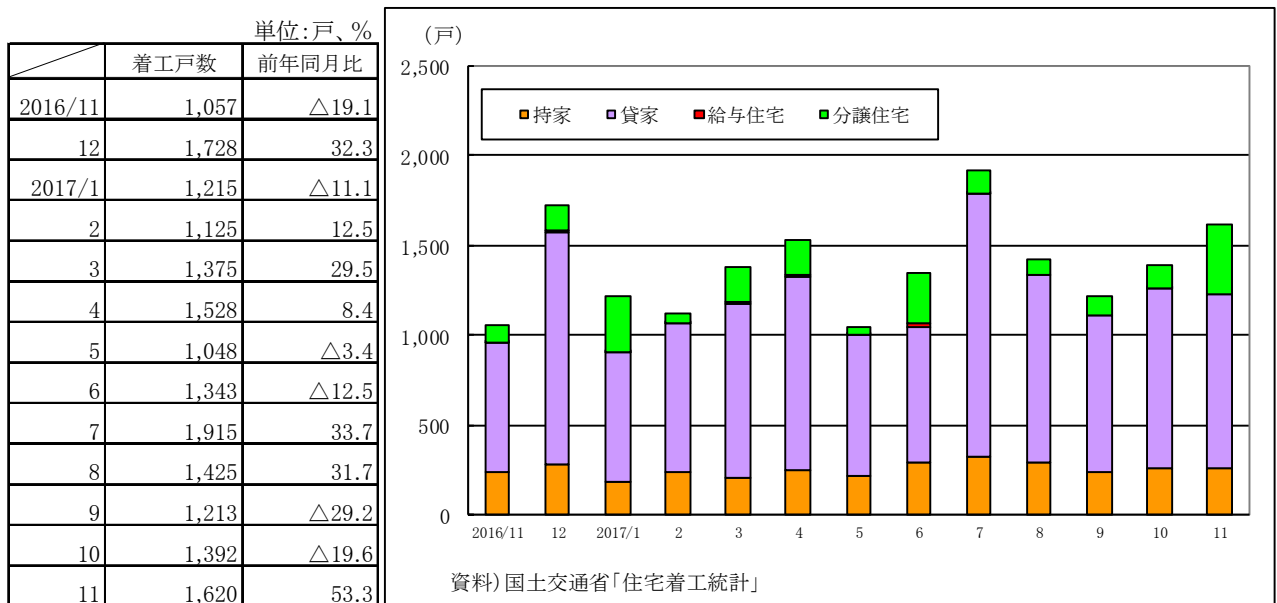
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

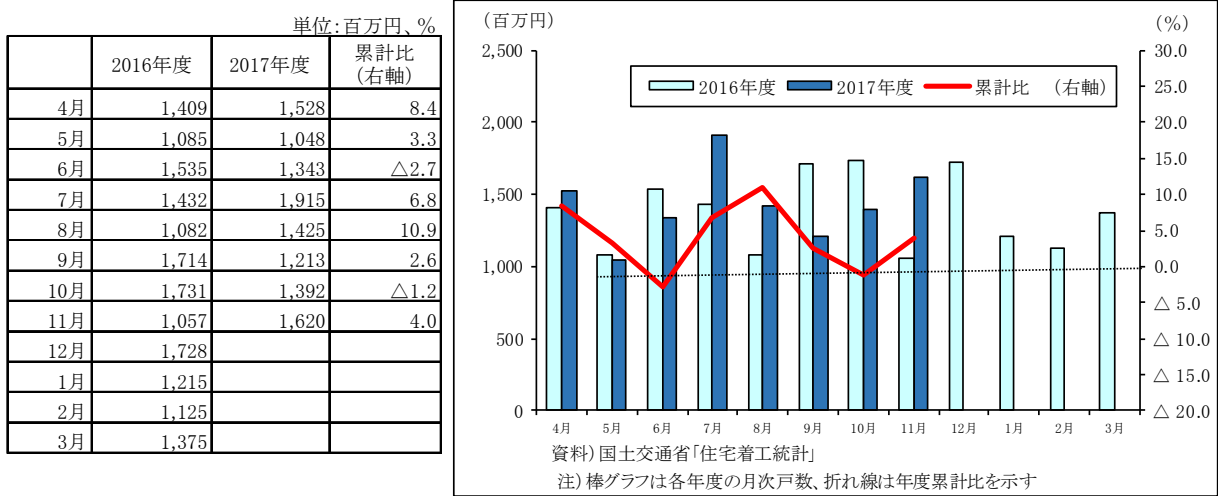
建設資材関連では、生コンの出荷量は17.1%増と10ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より23.3%上回り、民間工事向け出荷は14.0%上回りました。セメント出荷量は18.6%増と13ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(11月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。



新設住宅着工戸数(11月)は、全体で前年同月比53.3%増の1,620戸と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同35.7%増)」や「持家(同7.4%増)」、「分譲住宅(同314.9%増)」は前年同月を上回り、「給与住宅(同100.0%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。



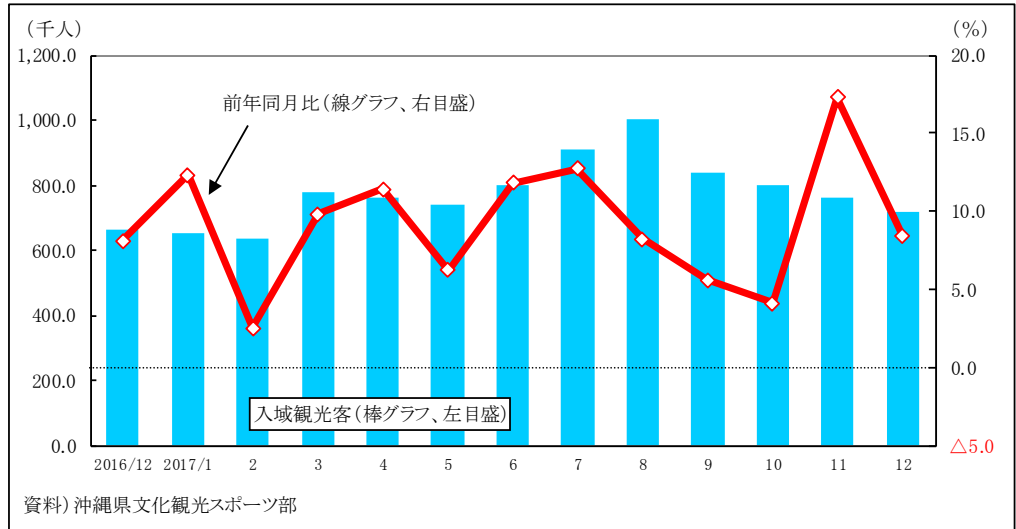
年度累計で見ると、4.0%増となっています。(上記折れ線グラフ)



■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・63ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2016/12	663.0	8.1
2017/1	653.0	12.3
2	637.9	2.5
3	778.5	9.8
4	759.2	11.4
5	740.6	6.2
6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2
9	837.1	5.6
10	799.3	4.1
11	762.9	17.3
12	718.5	8.4

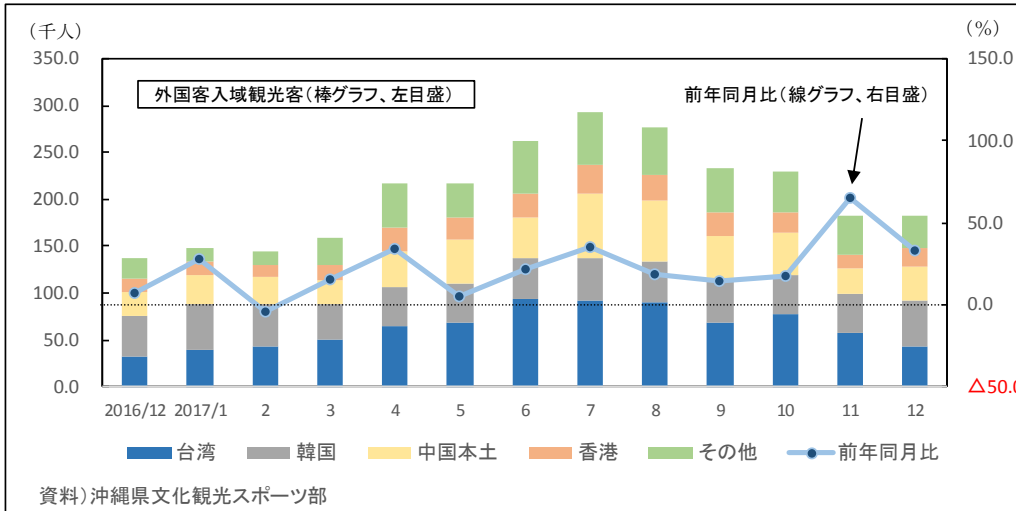


資料) 沖縄県文化観光スポーツ部

※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・10ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2016/12	137.2	6.9
2017/1	147.2	28.1
2	144.1	△ 3.9
3	158.4	14.9
4	217.6	34.2
5	216.8	5.0
6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8
9	233.5	14.8
10	229.2	17.7
11	182.4	65.5
12	183.1	33.5



資料) 沖縄県文化観光スポーツ部

※外国客は乗務員等を含む

12月の入域観光客数は、55,500人多い718,500人(前年同月比8.4%増)となり、63ヵ月連続で前年同月を上回りました(12月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同1.8%増)」は535,400人と、航空会社による販売取組の強化(先行割引航空券の販売)により需要が好調に推移したほか、年末年始の旅行需要や、離島直行便の需要においても好調さがみられたことなどから、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同33.5%増)」は、183,100人と10ヵ月連続で前年同月を上回りました。年末年始の旅行需要の高まりや、航空路線の拡充(台中ー那覇路線の増便等)効果、クルーズ船の寄港回数増加等により前年同月を上回りました。

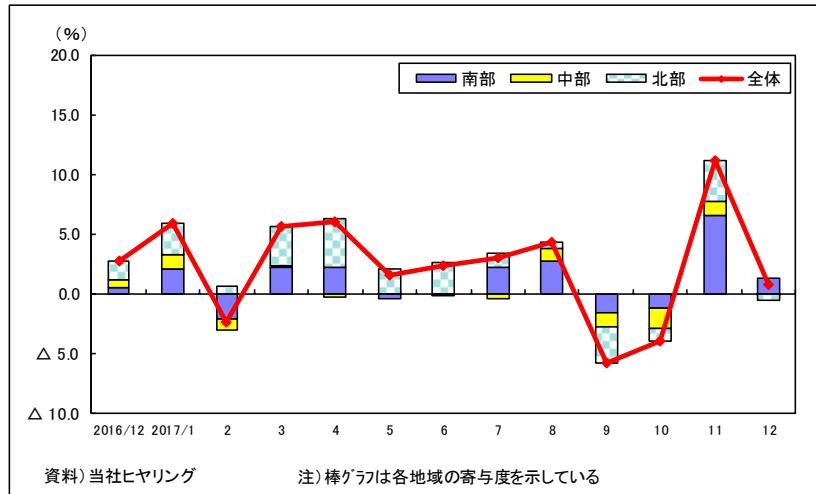
「台湾(同32.4%増)」「韓国(同14.2%増)」「中国本土(同47.0%増)」「香港(同26.4%増)」

※乗務員等を除く2017年12月実績=全体698,100人(同7.1%増)、外国客162,700人(同29.3%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2016/12	2.7	1.1	5.0	3.5
2017/1	5.9	5.4	8.9	5.5
2	△ 2.4	△ 5.6	△ 7.6	1.3
3	5.6	5.6	1.6	6.7
4	6.1	5.8	△ 1.8	8.5
5	1.5	△ 1.2	0.04	4.2
6	2.4	△ 0.1	△ 1.3	5.0
7	3.0	6.7	△ 3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△ 5.8	△ 4.7	△ 10.5	△ 5.6
10	r △ 4.0	△ 3.1	△ 14.5	r △ 2.0
11	r 11.1	15.7	9.7	r 7.3
12	0.7	3.0	△ 0.1	△ 1.2



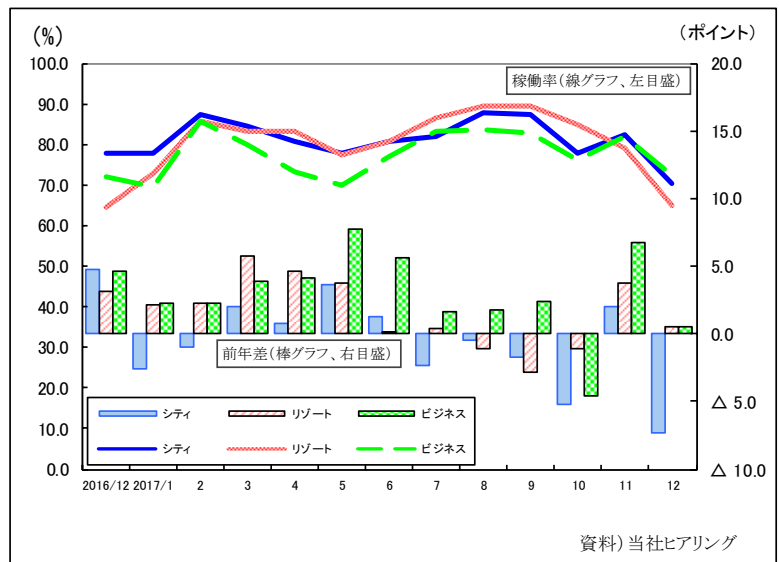
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 0.7%増加(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 3.0%増と 2ヵ月連続で前年同月を上回り、中部は同 0.1%減と 2ヵ月ぶり、北部は同 1.2%減と 2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

③ホテル稼働率・・・リゾートホテル、ビジネスホテルは前年同月を上回り、シティホテルは下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2016/12	77.6	r 64.5	72.0	4.8	r 3.1	4.6
2017/1	77.9	73.0	69.6	△ 2.6	2.1	2.3
2	87.3	85.6	85.7	△ 1.0	2.3	2.3
3	84.3	83.0	79.8	2.0	5.7	3.9
4	80.9	83.1	73.4	0.8	4.6	4.1
5	77.8	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	80.9	80.8	76.9	1.3	0.1	5.6
7	82.0	86.6	83.0	△ 2.4	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△ 0.5	△ 1.1	1.8
9	87.4	89.3	82.8	△ 1.7	△ 2.8	2.4
10	77.7	84.9	76.3	△ 5.2	△ 1.1	△ 4.6
11	82.2	78.9	81.8	2.0	3.8	6.8
12	70.3	65.0	72.5	△ 7.3	0.5	0.5



注) シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

注) 2015年10月より、シティホテル対象施設数が増(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

注) 2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が増(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

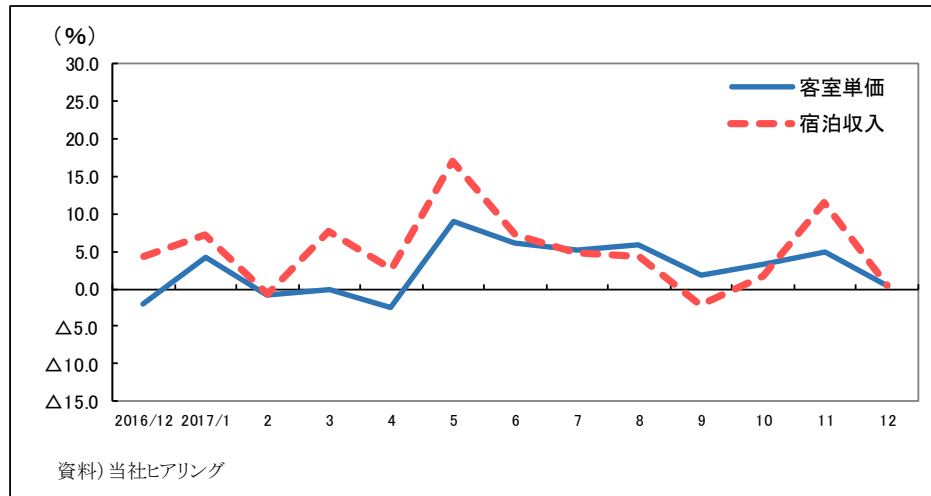
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 70.3%と 7.3ポイント減少(2ヵ月ぶり)、リゾートホテルが 65.0%と 0.5ポイント上昇(2ヵ月連続)、ビジネスホテルが 72.5%と 0.5ポイント上昇(2ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。

単位: %

	客室単価	宿泊収入
2016/12	△1.9	r 4.4
2017/1	4.2	7.1
2	△0.8	△0.6
3	△0.2	7.7
4	△2.6	2.6
5	9.1	17.0
6	6.2	7.1
7	5.2	4.7
8	5.9	4.4
9	1.8	△2.2
10	3.3	1.8
11	5.0	11.6
12	0.5	0.4



※対象施設数: 27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数に変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.5%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同0.4%増と前年同月を上回りました。

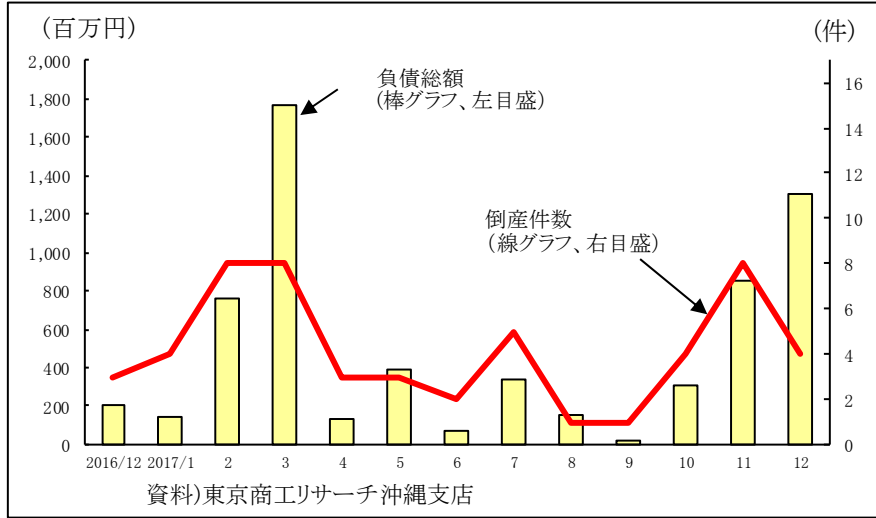


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2016/12	200	3
2017/1	141	4
2	760	8
3	1,766	8
4	130	3
5	391	3
6	70	2
7	334	5
8	157	1
9	16	1
10	307	4
11	852	8
12	1,299	4



12月の企業倒産件数は、4件(うち大型倒産は1件)となり、同33.3%増と前年同月を上回りました。負債総額は12億9,900万円となり、前年同月より549.5%増加しました。

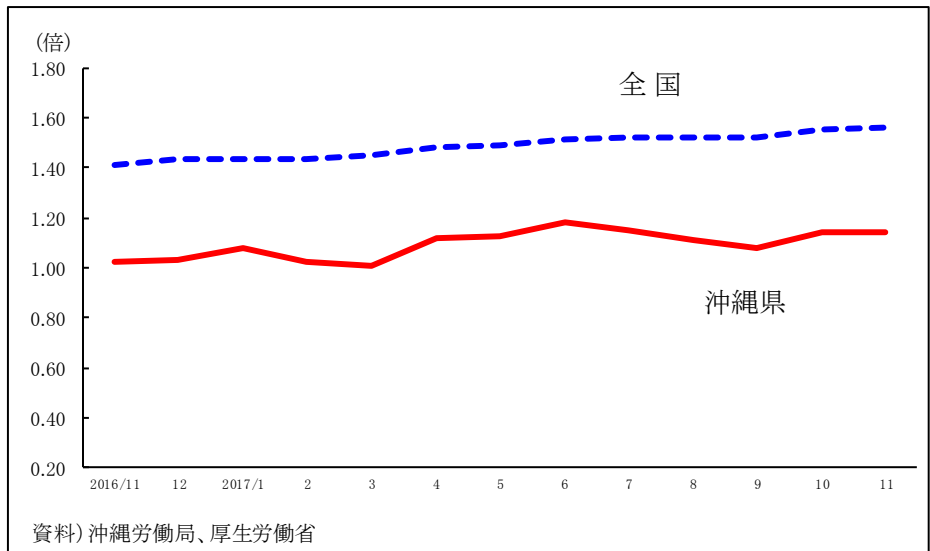


【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(11月)・・・沖縄は前月と同水準、全国は上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2016/11	1.02	1.41
12	1.03	1.43
2017/1	1.08	1.43
2	1.02	1.43
3	1.01	1.45
4	1.12	1.48
5	1.13	1.49
6	1.18	1.51
7	1.15	1.52
8	1.11	1.52
9	1.08	1.52
10	1.14	1.55
11	1.14	1.56



注)季節調整済

注)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

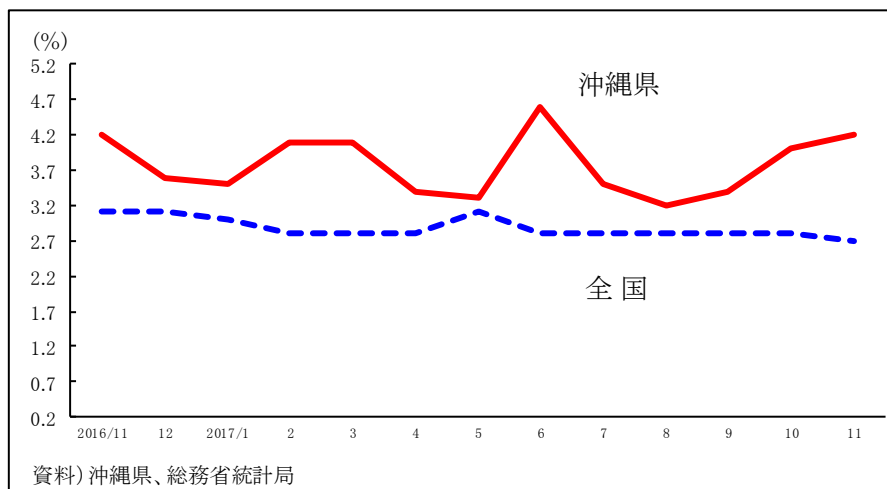
11月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比0.5%減の29,129人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.6%減の25,472人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.14倍となり前月と同水準となりました。

完全失業率(11月)・・・沖縄は前月より上昇、全国は低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2016/11	4.2	3.1
12	3.6	3.1
2017/1	3.5	3.0
2	4.1	2.8
3	4.1	2.8
4	3.4	2.8
5	3.3	3.1
6	4.6	2.8
7	3.5	2.8
8	3.2	2.8
9	3.4	2.8
10	4.0	2.8
11	4.2	2.7

注) 季節調整済



11月の完全失業率(季節調整値)は、4.2%となり前月より0.2ポイント上昇しています。